

都議会議員の政治的動機に関する分析

2025年1月31日

1. はじめに

議員とは、選挙によって選出され、市民の代表として政治に携わる役職である。議員は、多様な社会問題を取り扱うため、政治や社会問題に関する専門的な知識を有する必要がある。したがって、一般的には議員という役職の専門性の高さと、選挙活動に対する労力や資金の問題から、議員になることは容易ではない。しかしながら、現職の議員はこれらの問題を乗り越え、議員として活動していることになる。この高いハードルを乗り越え、彼らはなぜ議員を目指したのだろうか。そこで本研究では、政治家の立候補の動機と、政治家を志した年齢に何が影響しているのかを分析する。

2. 背景

本稿では、性別や会派が政治家の立候補の動機に与える影響と、親族の政治家の有無が政治家を志した年齢に与える影響を検討する。

まず、三浦(2020)は議員職のジェンダー分析という観点で、政治家の立候補の契機を調査した。彼女は初めて国政選挙に出馬する候補者に、立候補の契機に関するアンケートを実施し、立候補の理由に男女差が観察されたと述べている。女性は「政党本部からの出馬要請」と答える割合が最も多いのに対して、男性の半数は「自らの意思」と答えている。そして、男性は自らの意識で立候補し、女性は政党からの働きかけがあって初めて立候補を考えるとというのは日本だけではなく、多くの国で指摘される傾向であると指摘している。したがって、多くの国において、女性は他者からの働きかけ、男性は自らの意思で立候補を決める傾向があるといえる。つまり、立候補の理由が男性と女性では異なると考えられ、性別が国会議員を志す動機に影響を与えると見える。

次に竹安(2002)は、地域政治の領域から、女性の地方議員の立候補理由を調査した。公明党と共産党の議員を除くと、女性地方議員の大多数が出馬直前まで、自分が政治家になることを全く予期していなかった。立候補を自ら決意した女性は少数で、家族や周囲の人

から後押しされ、出馬を決めた人が多い。したがって、多くの女性は周りからの依頼で立候補を決意する傾向にあるが、会派によって立候補の契機が異なると考えられる。

さらに飯田・上田・松林(2011)は、世襲議員と非世襲議員に関するデータを比較し、世襲議員は非世襲議員に比べて早くキャリアをスタートさせるということに加えて、それだけ選挙で当選を重ねる可能性が高いと指摘している。よって、親族の議員の有無は、政治家を志す年齢に影響していると言える。

3. 仮説

三浦(2020)より、調査対象が衆議院選の立候補者と都議会議員という違いがあるが、同じ議員として、性別によって立候補の理由に同様の傾向が見られるのではないかと考える。そして竹内(2002)は、公明党と共産党に所属する女性議員は、他の女性議員とは異なる出馬理由であることを示している。つまり政党は、党内の方針で議員の出馬を決定し、これは男性議員も共通しているのではないかと考えられる。また、飯田・上田・松林(2011)から、世襲議員が非世襲議員に比べて早く立候補し、キャリアをスタートさせているということは、世襲議員は非世襲議員よりも政治家を志す年齢が低いと考えられる。したがって、親族に政治家がいる議員は、そうでない議員に比べ、政治家になることを志す年齢が低いと仮説を立てる。よって、以下に3つの仮説を示す。

仮説1：男性は自らの問題意識、女性は政党からの働きかけによって政治家を志す。

仮説2：所属する会派が、立候補の動機に影響を与える。

仮説3：親族に政治家がいると、そうでない議員に比べ、政治家になることを志す年齢が低い。

4. データと変数、分析方法について

津田塾大学中條研究室が2024年9月末から11月にかけて都議会議員123名(調査開始時)を対象として実施した第7回都議会議員調査によるデータを用いる。調査は郵送法で行い、回収は郵送のほかWeb回答も受け付けた。70名から回答(23名郵送、47名Web)

があり、回収率は56.9%である。質問によっては回答に欠損値があるため、分析に用いる観測数（n）はその都度異なる。無回答については、欠損値と処理した。

各設問から変数を作成した過程について説明する。「政治家になることを志したきっかけは何でしょうか。特に強い動機となったと思われるものを1つお選びください。」という質問に対して、「1. 学校や研修などで生じた問題意識」、「2. 日常で感じた問題意識」、「3. 政治家である親族の姿をみて」、「4. 政治家(親族以外)の姿をみて」、「5. 他者からの働きかけ・依頼」、「6. その他」という選択肢を作成した。そして、都議会議員の性別は、女性=0、男性=1という変数に振り分けた。各議員の所属会派は、各政党の項目に振り分け、応答なし=0、応答あり=1として識別した。加えて、「ご自身が何歳の時に、政治家になることを志しましたか、もしくは立候補を決意しましたか。」という質問に都議会議員が回答した年齢を、政治家を志した年齢とした。また、「ご親族に、政治家または政治家だった方はいらっしゃいますか。」という質問に対し、得られた回答を親族の政治家の有無として用いた。親族に政治家がいない=0、親族に政治家がいる=1として識別した。

次に、各変数の記述統計を示す。表1に性別と政治家を志す動機のカロス表、表2には政党とグループ別の政治家を志す動機のカロス表を示す。表1より、男性と女性の両方が、日常で感じた問題意識を最も動機として挙げており、次いで他者からの「働きかけ・依頼」が多かった。グループ別の政治家を志す動機においては、男女ともに問題意識が1番多い。女性は2番目に働きかけが多く、男性は政治家と働きかけを選んだ回答数が同じだった。政治家の選択肢を選んだ女性は誰もおらず、男性のみが政治家のグループの選択肢を選んだことが読み取れる。そして、表2より、回答者の所属会派は「ミライ会議」、「地域政党自由を守る会」、「日本共産党東京都議会議員団」、「東京都議会立憲民主党」、「東京都議会自由民主党」、「都民ファーストの会」、「都議会公明党」と無所属となった。「日本共産党東京都」と「都議会公明党」においては、働きかけが立候補の理由として1番挙げられている。しかしながら、それ以外の政党では、日常で感じた問題意識が最も理由として挙げられていることが読み取れる。

表1 性別と政治家を志す動機のクロス表

	問題意識		政治家の姿		働きかけ	その他
	学校と研修	日常	親族	親族以外		
女性	2	12	0	0	8	1
男性	4	10	3	3	7	3
合計	6	22	3	3	15	4

表2 政党とグループ別の政治家を志す動機のクロス表

	問題意識		政治家の姿		働きかけ	その他
	学校と研修	日常	親族	親族以外		
ミライ会議	0	1	0	0	0	0
地域政党 自由を守る会	0	2	0	0	0	0
日本共産党東京都議会議員団	0	2	0	0	10	1
東京都議会立憲民主党	1	2	0	0	1	1
東京都議会自由民主党	0	5	2	1	0	1
無所属	1	4	0	0	0	0
都民ファーストの会 東京都議団	3	6	0	1	1	1
都議会公明党	1	0	1	1	3	0
合計	6	22	3	3	15	4

表3に議員を志した年齢の記述統計を示し、図1と図2に全体と性別ごとの議員を志した年齢に関するヒストグラムを示す。

表3 議員を志した年齢の記述統計

議員を志した年齢	
平均値	32.09
(男性)	29.60
(女性)	35.35
中央値	32
最大値	50
最小値	10

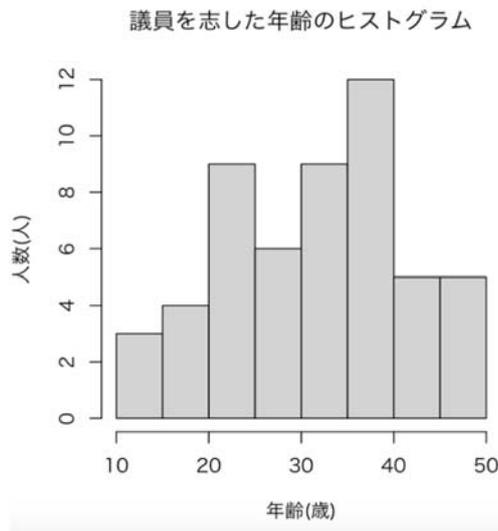


図1 議員を志した年齢のヒストグラム

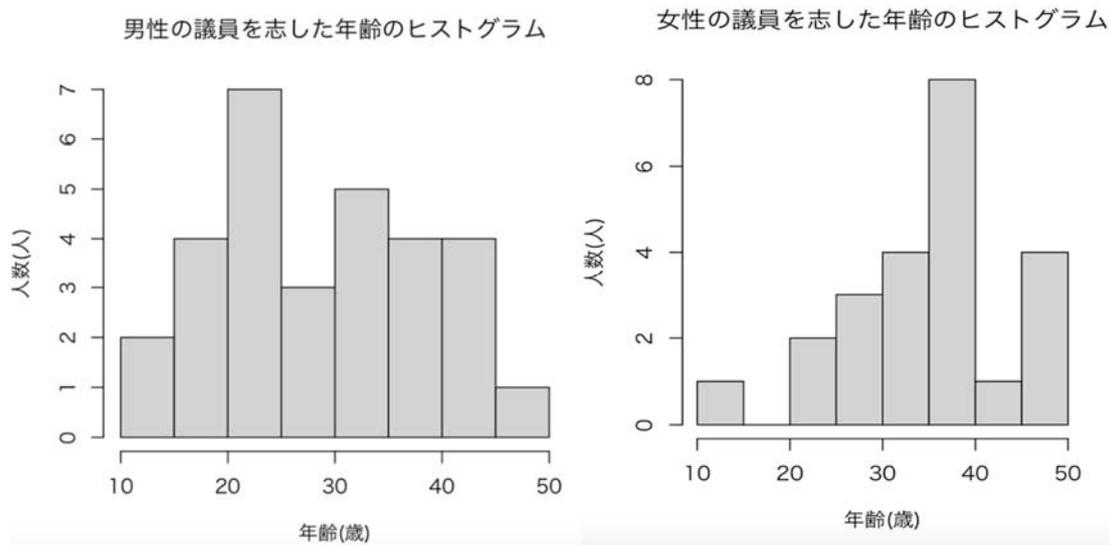


図2 議員を志した年齢のヒストグラム(左：男性、右：女性)

性別や会派が政治家の立候補の動機に与える影響と、親族の政治家の有無が政治家を志した年齢に影響を与えるかを調べるため、仮説1と2はそれぞれ性別、政党と政治家を志した動機をカイ二乗検定し、仮説3は政治家を志した年齢と親族の政治家の有無の関係を調べるために、重回帰分析を行なった。各カテゴリーの観測数(n)が少ないことから、仮説1と2で用いる政治家の立候補の動機を、「学校や研修などで生じた問題意識」と「日常

で感じた問題意識」を問題意識、「政治家である親族の姿をみて」と「政治家(親族以外)の姿をみて」を政治家、「他者からの働きかけ・依頼」を働きかけという3つのグループに分け、「その他」は記述を参考に振り分けた。

5. 分析結果

(1) 仮説1

まず、表4に男女別の政治家を志した動機のカロス表を示す。表4から、男女ともに、政治家を志した動機として最も問題意識を挙げ、働きかけは男性よりも女性の方が選択したことが読み取れる。そして、政治家を選んだ女性は誰もおらず、それに対して男性は、政治家が働きかけと同数になっている。したがって、「政治家の姿をみて」という理由においては、男女差があるということが統計的に言える。

表4 男女別の政治家を志した動機

	問題意識	政治家	働きかけ
女性	14	0	9
男性	16	7	7
合計	30	7	16

次に、性別を説明変数、政治家を志した動機を目的変数として、カイ二乗検定を行った。帰無仮説を「性別によって、政治家を志すきっかけは変わらない」、対立仮説を「性別によって、政治家を志すきっかけは異なる」とした。表5の結果より、p値が0.05より小さいことから、統計的に有意であることが読み取れる。したがって、帰無仮説は棄却され、性別によって、政治家を志すきっかけは異なるといえる。つまり、この結果は、表の分布に偏りがあることが統計的に言えることを意味するが、表から「政治家をみて」という理由において性差が見られるものの、問題意識と働きかけにおいては性差がないということになる。

表5 カイ二乗検定の結果

自由度	2
t 値	6.573
p 値	0.037

(2) 仮説2

表6に、会派別の政治家を志した動機を示す。「ミライ会議」は所属議員から回答が1つしか得られなかったため、問題意識を最も政治家を志した動機として挙げている。「地域政党 自由を守る会」、「東京都議会立憲民主党」、「東京都議会自由民主党」、「都民ファーストの会 東京都議団」と無所属においても、問題意識が最も政治家を志した動機として挙げられた。特に、「都民ファーストの会 東京都議団」は問題意識に偏っていることが読み取れる。しかしながら、「日本共産党東京都議会議員団」と「都議会公明党」においては、働きかけを動機として最も挙げられており、特に「日本共産党東京都議会議員団」は働きかけに偏っている。したがって、「都民ファーストの会 東京都議団」は問題意識、「日本共産党東京都議会議員団」は働きかけに偏った回答をしていると言える。

表6 会派別の政治家を志した動機

	問題意識	政治家	働きかけ
ミライ会議	1	0	0
地域政党 自由を守る会	2	0	0
日本共産党東京都議会議員団	2	0	11
東京都議会立憲民主党	3	1	1
東京都議会自由民主党	6	3	0
無所属	5	0	0
都民ファーストの会 東京都議団	10	1	1
都議会公明党	1	2	3
合計	30	7	16

政党を説明変数、政治家を志した動機を目的変数として、カイ二乗検定を行った。表 7 より、帰無仮説を「会派によって、政治家を志すきっかけは変わらない」、対立仮説を「会派によって、政治家を志すきっかけは異なる」とした。表 5 の結果より、p 値が 0.05 より小さいことから、統計的に有意であることが読み取れる。したがって、帰無仮説は棄却され、会派によって、政治家を志すきっかけは異なるといえる。つまり、この結果は、会派別の政治家を志した動機の分布に偏りがあることが統計的に言えることを意味し「都民ファーストの会 東京都議団」は問題意識、「日本共産党東京都議会議員団」は働きかけに偏った回答をしていると言える。

表 7 カイ二乗検定の結果

自由度	14
カイ二乗値	38.444
p 値	0.000

(3) 仮説 3

まず、政治家を志した年齢に影響を与えている変数を調べるために、目的変数を政治家を志した年齢、説明変数を会派、親族の議員の有無、グループ別のきっかけ、性別として重回帰分析を行なった。グループ別のきっかけとは、仮説 1 と 2 で使用した政治家を志した動機を、問題意識、政治家、働きかけの 3 つのグループに分けたものである。分析結果を表 8 に示す。

表 8 重回帰分析の結果

目的変数：議員を志した年齢	係数	標準誤差
ミライ会議	-14.433	10.217
地域政党 自由を守る会	-1.012	8.070
日本共産党東京都議会議員団	-7.523	6.755
東京都議会立憲民主党	-7.316	7.059
東京都議会自由民主党	5.523	6.196
無所属	-1.455	6.769
都民ファーストの会 東京都議団	2.171	5.793
都議会公明党	2.852	6.985
親族の議員	-4.843	2.965
グループ別のきっかけ	4.359	2.182
性別	-10.458 **	3.304
切片	33.074 ***	5.650
サンプルサイズ	52	
自由度調整済み決定係数	0.195	
AIC	385.471	

帰無仮説を「親族の政治家の有無は、政治家を志す年齢には影響を与えない」、対立仮説を「親族に政治家がいると、政治家を志す年齢が低くなる」とした。表 8 の結果より、親族の議員の有無、政党、グループ別の動機の p 値が 0.05 より大きいことから、統計的に有意ではないことが読み取れる。そして、統計的に有意な説明変数は、性別のみだった。したがって、帰無仮説は棄却されず、親族の政治家の有無は、政治家を志す年齢には影響を与えないと言える。

重回帰分析から、性別が政治家を志す年齢に影響を与えているという結果が得られた。そこで、性別と議員を志した年齢について独立な 2 群の t 検定を行なった。表 9 に分析結果を示す。

表9 t検定の分析結果

自由度	51
t 値	2.228
p 値	0.030

表9から、帰無仮説を「女性と男性で政治家を志す年齢に差はない」、対立仮説を「女性と男性で政治家を志す年齢に差がある」とした。表9の結果より、p値が0.05より小さいことから、統計的に有意であることが読み取れる。したがって、帰無仮説は棄却され、性別によって政治家を志す年齢に差があると言える。加えて、記述統計と図2のヒストグラムより、政治家を志す年齢の平均は男性よりも女性が高いことが読み取れる。これらの結果から、女性の方が男性よりも政治家を志した年齢が高いという結果が得られた。

6. 結論と含意

本稿では、政治家がなぜ議員になることを志したのかということ进行调查するために、主に立候補の動機と当時の年齢について分析した。先行研究から、性別が議員を志す動機に影響を与えること、会派によって立候補の契機が異なること、親族の議員の有無が、政治家を志す年齢に影響していることが導かれた。そこから、「仮説1:男性は自らの問題意識、女性は政党からの働きかけによって政治家を志す。」「仮説2:所属する会派が、立候補の動機に影響を与える。」「仮説3:親族に政治家がいると、そうでない議員に比べ、政治家になることを志す年齢が低い。」という3つの仮説を立てて分析した。

分析結果より、性別によって、政治家を志す動機が偏っていることが読み取れた。しかしながら、政治家の姿をみて政治家になることを志したという理由においては性差が見られたが、問題意識と働きかけにおいては性差がないという結果になった。したがって、仮説1は支持されなかった。仮説2においては、仮説2は支持された。そして、政治家を志した年齢においては、親族の政治家の有無ではなく、性別が影響を与えていることが明らかとなった。したがって、仮説3は支持されなかった。親族の政治家の有無は、政治家としてのキャリア形成を早めることにはつながっておらず、男性の方が女性よりも早くから政治家としてのキャリア形成をしていると考えられる。これらの結果から、男性は政治家

の姿をみて政治家を目指す傾向があり、女性に比べて政治家を目指す時期が早いことが明らかになった。そして、性別は親族の政治家の有無よりも、政治家を志す動機に大きく影響を与えると考えられる。

参考文献

飯田健・上田路子・松林哲也(2011)「世襲議員の実証分析」『選挙研究』26 巻第 2 号 p.139-153.

竹安栄子(2002)「地域政治への女性参画を阻む要因」『現代社会研究』3 巻 p.5-20.

三浦まり(2020)「政治家というキャリア：議員職というジェンダー分析」『日本労働研究』62 巻第 9 号 p.89-97.